

三重病院レポート

東北地方太平洋沖地震に係る医療支援

3月11日(金)に発生しました東北地方太平洋沖地震で被災されました皆様に心よりお見舞い申し上げます。

国立病院機構の各病院と同様、三重病院も一刻も早く被災者の皆様に支援するよう3月18日(金)に医療班を派遣しました。医療班は、医師1名、薬剤師1名、看護師2名、事務職2名計6名の編成です。

未曾有の大災害のため、長距離走行可能な車の手配、寝袋、毛布等の準備、衛星携帯電話の手配、地元警察署への緊急車輛通行証の発行依頼など準備に追われました。

被災地が広範囲に及ぶので現地の支援指示体制は混乱しており、当初、三重病院が医療支援を行う地域は、岩手県花巻市だったのですが、出発直前に岩手県釜石市に変更されるなど、正確な情報を得るのが困難な状況でした。

行程は東名高速、東北自動車道を走行する約1,000km、15時間に及ぶもので、しかも雪道対策も必要です。

現地での医療活動は、19日から21日までの3日間で各避難所の巡回診療を行い、約200名の避難者の方の診療をしました。そして、4泊5日の日程の支援を終え22日夜、全員が無事帰院しました。

今回は、災害発生直後の派遣で正確な情報がない中、支援活動には様々な困難がありましたが、国立病院機構の病院として一定の使命が果たせたものと確信し今後も継続的に医療班を派遣していく予定です。

(管理課長 榎内 準一)



避難所となっている岩手県釜石市大平集会所での当院医療班の巡回診療の様子



植物を探せ!

vol.19

家と自分がテーマの植木鉢を作った小学生の男の子の表現力豊かな作品です。



〈ヒント〉
外来診察室のカーテンの近く

※前回の答え/ 病棟へ続く廊下のピンクのソファの上

医療福祉相談室だより

医療福祉相談室には小さな図書コーナーがあります

子どもの病気(難病・発達障害・こころの病気)に関するものから、介護する側・される側、子育てのヒントになる本、話題の本などおいています。ソーシャルワーカーが面接中の時はお部屋に入れませんが、それ以外はいつでもかまいませんので外来・入院問わずふらりのぞいてください。

今月のイチオシ

「だじゃれ日本一周」

長谷川義史 作/理論社

「きたはほっかいろ、みなみはチャーシューおっきいわまで」で始まる、ええ〜っという寒いだじゃれから、そうきますか! というびっくりだじゃれまで、47都道府県をだじゃれで巡ります。

あなたの出身はどこですか?

おじいちゃんおばあちゃんはどこに住んでいますか?

行ったことのある県はどこですか?

幼稚園くらいの子から大人まで一緒に楽しめるおすすめ本です。

(ソーシャルワーカー 高村 純子)